

§1 種苗法改正について

種苗法は、品種登録制度と指定種苗制度の2制度から、品種の育成の振興と種苗の流通の適正化を目的として1978年に制定されました。農産物の新種を開発した人が栽培を独占できる育成者権を保護する法律で、農業の世界で著作権、特許権のような存在で、より良い農産物を作るために品種改良を推進する目的で作られました。しかしながら、昨今、日本で開発されたブドウ(シャインマスカット)やイチゴ(スカイベリー)、さつまいも(紅はるか)などの優良品種が海外に流出し、第三国に輸出/産地化された事例が多々出てきており、登録権者の利益が損なわれていることや、現行制度では日本国内での新品種開発が滞ることが懸念されることから、より実効的に新品種を保護するために2020年12月に法改正が行われ、2021年4月より施行されました。

今回の種苗法の改正では主に次の点が改正されました。

- 1) 開発者が輸出できる国や国内栽培地域を指定することが可能になります。
現行法では、開発者が種苗業者や農業者に種苗を正規に販売した場合には、海外への持出の制限はできませんでした。
- 2) 国に登録した「登録品種」は、自家増殖に開発者の許諾が必要になります。
自己増殖が一切禁止になるわけではなく、在来種(地域の伝統品種)を含め、農業者が今まで利用していた一般品種は今後とも許諾や許諾料も必要なく、自由に自己増殖ができます。
家庭園芸等で収穫物の譲渡や販売を行わない自家消費目的の栽培の利用は制限しません。



日本農業にとっては、海外との競争に負けないためにも、品種改良の推進が必要不可欠であり、今回の改正で日本の品種が守られることはありがたい事だと思います。ただし、善意の農家のためには、自家増殖には使いやすい許諾の手続きや許諾料になるような国の制度としてほしいものです。



業界の自主的な取り組みとして、PVP(Plant Variety Protection:植物品種保護):種苗法の登録品種(登録出願中)を表示するマークが決められ、協会に申請承認を受けることで使用できます。



詳細については、農林水産省のホームページの「種苗法の改正について」を参照してください。
(<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/shubyoho.html>)

<「種苗法」と混乱しやすい廃止された「種子法」とは? >

「種子法」は、食糧難時代の1952年に主要農産物であるコメ、大豆、麦の安定的生産、普及を促進するために制定された法律です。優良な種子の安定的生産と普及を国が果たすべき役割として定め、各都道府県において普及すべき品目の選定(奨励品種)や、原種の生産と安定供給は都道府県が責任をもつと定められました。しかしながら、規制緩和の時代の流れの中で、お米、大豆、麦の公的機関により運営されていた種子事業を、民間にも委ねようとして、2018年に廃止となりました。

§2 ナメクジ、カタツムリの駆除について

今年は例年より3週間も早く、梅雨入りになりました。じめじめした季節になると活発に活動するナメクジやカタツムリ。作物防除においては同じ薬剤での防除ですが、その生態・形態は同じでない部分もあります。今月はその生態と防除に使える薬剤についてご紹介させていただきます。

	カタツムリ(陸に住む巻貝の総称で生物学的な分類定義はない。)日本だけで700~800種類生息。		ナメクジ 世界的には約1000種類生息。 日本では20~30種が生息。	
分類	軟体動物門 腹足綱(ふくそくこう:腹面が幅広い足となりはい歩く生き物) 有肺目(ゆうはいもく:陸で生活する貝の仲間))			
	カタツムリ(マイマイ)科		ナメクジ科 カタツムリが殻を退化させて進化	
形態	頭部には大小2対の触覚があり、大触覚の先端に目がついている。 頭部下面に口があり、上部に顎版(がくばん)、底部に軟骨性でヤスリ状のし金状の軟骨性の歯舌(しぜつ)があり、食べ物を削り取って摂取する。 乾燥を防ぐため、粘々の液体を出して体に水をまとわりつかせている。 水分90%なので、塩をかけられると浸透圧で水分が外に出るために縮む。			
	背中に背負った殻は体の器官であり、中に内臓がある。		動きやすく、狭い隙間に入ることができる。ただし、敵に狙われると無防備。	
生態	夜行性で雌雄同体。 雑食性:草花、野菜はもちろん、キノコ、苔等を餌にする。 じめじめしたところを好む夜行性。日中は落ち葉の中や植木鉢の下、プランターの陰や草花の陰など湿気のある場所で過ごす。			
	コンクリートを齧る。(殻の成分が炭酸カルシウムのためカルシウム摂取が必要)			
繁殖・寿命	寿命は約3年~5年。 雨が多い、6月~8月にかけて繁殖。寒さや乾燥に弱いので、個体によっては冬眠、夏眠をする。 年10回前後(1回20~30個)産卵。		寿命は約1年~3年。 冬から春にかけて繁殖期。 年10回前後(1回20~60個)産卵。 雌雄同体のため、交尾するとどちらも産卵する。	

<農薬登録のある薬剤>

ナメクリーン3	10a あたり1~3kg	株元散布	メタルデヒド
スラゴ	1~5g/m ²	発生場所・加害場所、株元散布	燐酸第二鉄
マイキラ	100~200 倍 100L~300L	散布、土壌散布	メタルデヒド
ランネットDF (アスパラ)	1000 倍	灌注、散布	メソミル
リーフガード顆粒水和剤 (アスパラ、セルリー)	1500 倍	散布	チオシクラム

:使用にあたっては、ラベルをよく読み、登録内容を遵守してください。